

委託業務特記仕様書（令和元年5月1日以降適用）

（共通仕様書の適用）

- 第1条** 本業務は、「徳島県測量作業共通仕様書 平成21年4月」、「徳島県設計業務共通仕様書 平成21年4月」及び「徳島県地質及び土質調査業務共通仕様書 平成21年4月」に基づき実施しなければならない。なお、これらに定めのないもので、港湾設計・測量・調査等業務にあつては「港湾設計・測量・調査等業務共通仕様書（国土交通省港湾局）」に基づき実施しなければならない。
- 2 ただし、共通仕様書の各章における「適用すべき諸基準」で示された示方書、指針等は改定された最新のものとする。なお、業務途中で改定された場合はこの限りでない。

（共通仕様書の変更・追加事項）

- 第2条** 「徳島県測量作業共通仕様書 平成21年4月」、「徳島県設計業務共通仕様書 平成21年4月」及び「徳島県地質及び土質調査業務共通仕様書 平成21年4月」に対する【変更】及び【追加】仕様事項は、次のホームページに掲載の「委託業務共通仕様書（変更・追加事項）」のとおりとする。なお、入札公告日又は指名通知日における最新のものを適用するものとする。

（徳島県HP）：「委託業務共通仕様書について」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/2009033100099>

（共通仕様書の読み替え）

- 第3条** 「徳島県測量作業共通仕様書 平成21年4月」、「徳島県設計業務共通仕様書 平成21年4月」及び「徳島県地質及び土質調査業務共通仕様書 平成21年4月」において、「徳島県電子納品運用ガイドライン【土木事業設計業務編】」とあるのは「徳島県電子納品運用ガイドライン【土木設計等業務編】」と、読み替えるものとする。

（ウィークリースタンス）

- 第4条** 本業務は、ウィークリースタンス（受発注者で1週間のルール（スタンス）を目標として定め、計画的に業務を履行する）の対象業務であり、次の各号に取り組まなければならない。
- （1）ウェンズデー・ホーム（水曜日は定時の帰宅を心がける。）
 - （2）マンデー・ノーピリオド（月曜日（連休明け）を依頼の期限日としない。）
 - （3）フライデー・ノーリクエスト（金曜日（連休前）に依頼をしない。）
- 2 前項第1号は必ず実施するものとし、第2号及び第3号についてはどちらか一方は必ず実施しなければならない。なお、前項第1号から第3号に加えて別の取組を行うことを妨げない。
- 3 ウィークリースタンスとして取り組む内容は、初回打合せ時に受発注者の協議によって決定する。決定した内容は打合せ記録簿に整理し、受発注者間で共有する。
- 4 受発注者は、中間打合せ等を利用して取り組みのフォローアップ等を行わなければならない。
- 5 ウィークリースタンスの取組は、業務の進捗に差し支えない範囲で実施する。

（本業務の特記仕様事項）

- 第5条** 本業務における特記仕様事項は、別紙のとおりとする。

令和2年度 園瀬川 河川環境調査業務

1. 目的

大野橋～法花大橋周辺のシオマネキ、新貝～川西地区における水生生物及び出岩地区、上中筋～花房地区における植物の現地調査を行い、河川工事前の事前調査及び河川工事後のモニタリング調査を実施する。また、環境保全措置の検討として、園瀬川の河川工事による環境配慮への取組を整理し、その効果と今後の取組みについて検討を行う。

2. 現地調査

①シオマネキ調査

- JR 橋上下流の人工干潟のモニタリング調査を実施する。（夏季1季、大潮時1回）
- 調査方法は、基本的に目視観察とする。
- 人工干潟周辺（大野橋～法花大橋付近）のシオマネキについても調査を行う。
- JR 橋上流の人工干潟における底質の経年的変化を把握するために2地点で粒度組成分析を行う。
- JR 橋上流の人工干潟における地形の経年的変化を把握するために横断測量（N=6本）及び中心線設置測量（L=60m）を行う。

②植物調査

- 工事が予定されている上中筋地区において、事前調査として植物相調査を実施する。（春季、秋季各1回）
- 上中筋地区及び花房地区付近の事前調査として重要種（環境省及び徳島県版の最新のレッドリスト記載種）植物調査を実施する。（早春季、晩秋季各1回）
- 重要種が確認された場合には、確認地点及び生育状況を詳細に記録する。
- これまで移植してきた重要種（フジバカマ、コカモメヅル、ユキワリイチゲ）については、下記の時期を目安にモニタリング調査を実施する。

表-1. モニタリング調査スケジュール

項目	令和2年												令和3年			摘要
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
フジバカマ コカモメヅル		■						■								
ユキワリイチゲ												■				

③水生生物調査

- 新貝～川西地区における水生生物調査を実施する。（夏季1季、1回）
- 漁具は、タモ網・投網を使用する。
- スナヤツメの生息場所の環境特性を把握するため、確認された地点で粒度組成分析及び水質調査（pH、BOD、DO、電気伝導度）を実施する。

3. 調査成果のとりまとめ

現地調査の結果を現地調査票及び整理様式に整理するとともに、これまでに作成している環境情報図に新たな情報を追記する。

4. 環境保全措置の検討

- これまでに園瀬川で実施してきた環境保全措置の取組を分かりやすく整理するとともに、その効果と影響について評価を行う。
- 今後の河川工事による生物環境への影響を整理し、環境アドバイザーの意見を聞きながら環境保全措置の検討を行う。

5. 報告書の作成

本業務の目的を踏まえ、各段階で整理された結果について取りまとめを行い、成果報告書を作成した。なお、成果報告書は「徳島県電子納品運用ガイドライン【土木事業設計業務編】」に基づき作成する。